

# ユーザーが飲食店やスーパーなどの売れ残りを低価格で購入できるアプリを導入する

## 📄 概要

### ・現状

食料廃棄が1年間で612万トン(毎日国民が食べるお茶碗1杯分)でしており、特に飲食業界で廃棄される食料でいうと、120万トン発生している

食料廃棄が発生することで様々な問題があるが、特に廃棄された食品を償却する際に温室効果ガスが発生するため、それが結果的に農業に大きな打撃を与えたり、地球温暖化が進行してしまう

現在、食料廃棄の量は全体を通して年々少しずつは減ってはいるが、さらに効果的に廃棄量を削減する必要がある

### ・やりたいこと

北欧が行っている、廃棄寸前の売れ残った料理があるレストランをユーザーが探し、それを格安で購入し、受け取り出来るアプリ(Too Good To Go)を日本流にアレンジしたい

<https://www.sfinter.com/topics/post-505/>

### ・懸念点

1. 日本ですでにTABETEという類似サービスがあるため、うまく差別化できるようなポイントを出したい(登録エリア、店舗が少ない)
2. また日本では3分の1ルールがあり、食品の期限が他国と比べても厳しい現状に対してどう立ち向かうか

## 📄 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

アイデアで解決したい課題：日本国内で1年間で120万トン発生している食料廃棄に対して、北欧が行っている廃棄寸前の売れ残りの料理をレストランなどが提供し、ユーザーがそれを格安で購入できるという仕組みを日本でも地域おこしとして始めて、徐々に全国展開したい

・ターゲットユーザー：主に仕事終わりで飲食代をなるべく減らし、少しでも栄養のある料理を食べたいと考えているサラリーマンや主婦。

※ 検索時に商品の価格、値引き率、ジャンル(サラダ、弁当)などで条件を絞れるフィルター機能があればニーズが満たせる見込み

- ・対象となる商品の範囲：生ものも可能(野菜詰め合わせなどにして販売する想定)
- ・サービス提供エリア：川崎市〜区など小規模な地域で地域おこし目的で利用し、将来的には全国展開を見込んでいる
- ・マーケティング:その地域が通っている電車の広告や、スーパーなどに張り紙貼ったり、地元のニュースで取り上げてもらったりしてそのサービスを知ってもらう

## 📄 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

ユーザーがアプリで現在地を取得し、その周辺で売れ残った商品を低価格で提供しているレストランやスーパーなどを検索し、食べたいものにマッチする商品があればそれを購入できる  
それが全国的に普及することで食料廃棄の量を減らす

## 📄 類似(独創性)：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください(検索してみてください)

[TABETE - 食品ロスを削減するフードシェアリングサービス](#)

## 📄 有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか(存在している場合のみ記載ください)

対応できるエリア：地方に限定(TABETEでは対応エリア、店舗が少なく地方に対応していないことが多いため、優位性がある)

## 実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

### ○アプリの機能

1. ユーザー側：検索(商品ジャンル、値引き率、価格、アレルギー表示などで条件指定可能)、購入予約、レビュー投稿、お気に入り登録、
2. 店舗側:商品登録、登録済み商品確認、購入履歴(金額込み)
3. 管理者側:提携店舗一覧確認（CRUD）、取引内容(入出金込み)確認（CRUD）
4. 共通:ログイン、設定(店舗側、管理者側では権限の設定も変更可能)

### ○商品提供側の提供までの流れ

#### 1. ラストオーダー1時間前～ラストオーダー時間

- ・余ってしまい、在庫処分になりそうな食材から商品を作り、作った商品をアプリからユーザーが購入可能になるように登録する

- ※ 元からメニューにあるものや賄い的なものを詰め合わせでも可

- ※ スーパーで野菜が余れば、その詰め合わせでも可

- ※ 入力項目:商品名、受取可能時間、商品の残数、値段(割引前の値段も表示)、商品ジャンル、商品詳細、アレルギー表示、商品イメージ及び画像

- ※ 商品がくるまで涼しい場所で管理する

#### 2. ラストオーダー後～閉店時間

- ・まだ余っていれば、商品を作り登録する
- ・ユーザーから購入予約後、店舗に来ればで支払い対応をする

#### 3. 閉店後

- ・アプリ導入前と変わりなく片付け、売上確認作業

### ○商品購入側の購入までの流れ

- ・アプリを開き、ログイン

- ・現在地や機能エリアを選択し、売れ残り商品を提供している店舗を探す(店舗はプロットで表示)

- ・希望の店舗を押した後に表示される詳細画面から、購入したい商品を選ぶ

- ・その商品を押すと、詳細画面が開くため、購入数を選択する

- ※ デリバリーが可能な店舗であれば、デリバリーもしくは店頭受け取りを選択)

- ・最後入力内容を確認し、予約完了し、店頭に行って商品を受け取る or 商品が配達され 金額を支払う

- ※ ユーザーへの通知方法：設定で位置情報が常に許可になっていれば、レストランなどが売れ残り品を画面に登録したときにアプリから通知が出るようにする

## 課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

1. 日本ですでにTABETEという類似サービスがあるため、うまく差別化できるようなポイントを出したい(登録エリア、店舗が少ない)

⇒利用エリアを電車の沿線など地域で絞ることで、利用可能な店舗が都市部に固まっているTABETEと差別化できる

2. また日本では3分の1ルールがあり、食品の期限が他国と比べても厳しい現状に対してどう立ち向かうか

⇒食品を翌日に持ち推すことなく、賞味期限内に商品を提供することができる

## 期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

### ○初期費用・期間(単価100万)

金額:1000万(インフラ200万含む)、開発期間：5ヶ月

## ○ランニングコスト

保守作業：(サーバのメンテナンス作業や不具合の改修など) 年額:360万

デリバリーでUberEatsなどの宅配サービスを利用できるように後続フェーズで対応する必要がある場合は、追加で金額:600万、開発期間：3ヶ月



未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

- ・食料廃棄削減が結果的に地球温化防止につながり、農業への打撃が抑えられるため、人々が農作物の供給量で困る可能性が低くなる
- ・地域の活性化もでき、アプリを使って低価格で売れ残りを購入することで、人々が余ったお金を他の消費に使うことができ、それが経済活動を活発化させる